

自然談話資料にみられる日本語母語話者の

「なんて」「なんか」「など」

鈴木理子

要 旨

本稿は、「なんて」「なんか」「など」の使用実態と互換性を日本語母語話者による自然談話資料を対象に調べたものである。調査の結果、「など」は1例も現れなかった。また「なんて」と「なんか」は共に「など」の口語的な形とされているが、その使用に違いが見られ、格助詞に還元できるものは両形式に見られたが、「なんて」は「引用」に、「なんか」は文の成立に関わらないところに挿入されている場合が最も多かった。また、本来「引用」の機能を持たないはずの「なんか」が「引用」に使われている例も見られた。

キーワード なんて なんか 互換性 機能 自然談話資料

1. 調査の目的

「なんて」「なんか」は共に自然さを増す要素として有効だと考えられ、中級レベルの学習項目としても挙げられているが、教育現場で接する学習者からは習得に結びついていないという印象を受ける。先行研究や教材を調べた結果、先行研究¹⁾では「なんて」「なんか」は「など」の口語的な形とされ、「くだけた会話では「ナンカ」「ナンゾ」となることがある。ナンカとよく似た形に「ナンテ」がある」(寺村 1991:181)、「「など」より「なんか」「なんて」「な(ん)ぞ」の方が実際の用例に現れやすいかもしれない」(沼田 2000:194)といった表現で書かれている以外、実態を調査したものはないことが分かった。それぞれ作例や記述資料を対象にしており、否定の形や語と共起することが多いとされていた。一方の教材は意味についての記述が中心で、3形式をまとめて扱っているためにその違いが有無も含めて分からず、学習者の習得に結びつけるには不十分だと感じさせる²⁾。

そこで、本稿では、実態を踏まえた扱い方を考えるために、日本語母語話者の自然談話資料を用い、3形式の使われ方の違いの有無や形式間の互換の可否について調査することを目的とする。

2. 調査対象資料

『女性のことば・職場編』の自然談話資料³⁾を用いた。概要を以下に記す。

- 1) 実施時期及び地域：1993年9～11月首都圏。
- 2) 調査協力者：20～50代有職女性19名と会話相手、計154人（女性74人、男性62人、不明18人）。
- 3) 会話録音場面：職場でのフォーマル、インフォーマルな場面計3時間ずつ。うち、まとまった談話のある10分前後を文字化。総データ量552分。
- 4) レコード数：基本的に1文1レコードで全11421レコード。うち、くしゃみ、笑い等のみの188レコード、聞き取り不能（##で表示）の131レコードを除く11102レコードが分析可能。

3. 調査方法

- 1) 資料中の全「なんて」「なんか」「など」を抽出
- 2) 分析対象としない以下の用法を除外
 (副詞（「なんて大きいんだろう」「なんか、ズルしてる気がする」）、「何+と」「何+か」の変化形（「なんて言うのかな」「紙かなんかない?」）、フィラー（「なんか、昨日は疲れてー」）⁴⁾
- 3) 各形式の還元可能助詞・表現、形式間の互換性調査

今回対象とした各形式は一般に「取り立て助詞（とりたて詞）」に分類されるが、それは文の成立において必須の成分ではない（沼田 2000:155-156「任意性」）。そこで、それぞれの元の形が何であったかを調べるために3)を行った。

4. 調査結果

4.1 各形式の出現数

11102レコード中に現れた用例数は以下の通りである。

表1 各形式の出現数

	なんて	なんか	など
総レコード数	11102	11102	11102
有用例レコード数	85	403	0
総用例数	86	452	
分析対象用例数	63	61	
実質対象用例数	61	59	

「有用例レコード数」とはその中に各形式を有するレコードの数、「総用例数」は資料中に現れた全用例数、「分析対象用例数」は3. 2) を行った後の数である。この中から聞き取り不明箇所があるために詳細な分析ができないものを除いた「実質対象用例数」が、実際に分析対象とした数である。

表から分かるとおり「など」は1例も現れなかったため、以下は「なんて」「なんか」2形式を扱う。

4.2 「なんて」「なんか」還元可能表現

2形式の用例は、以下のように3種に大別できた。

- 1) 格助詞、係助詞「ハ」還元型
- 2) 引用の助詞「ト」類還元型
- 3) 新規挿入型

1) のうち格助詞還元型は「なんて」の前部分と述語との間に格関係が見られたもので、「ハ」還元型は「ハ」独自の働きで格助詞に還元できないものや、名詞述語文や形容詞述語文で通常「XはYだ」で表されるものである。2) は「ト」や「トイウ」等に還元できるもの、3) はもともと何もなかったところに新たに「なんて」「なんか」が挿入されたものである。

この種類別に用例を分類すると表2のような結果となり、次の3点が指摘できる。

表2 談話資料中の「なんて」「なんか」還元可能表現

還元可能表現	格助詞	係助詞 「ハ」	引用 「ト」類	新規挿入 (0)	合計
「なんて」 (%)	1 1 (18.03)	2 (3.28)	4 7 (77.05)	1 (1.64)	6 1 (100.00)
「なんか」 (%)	1 5 (25.42)	9 (15.26)	4 (6.78)	3 1 (52.54)	5 9 (100.00)

- 1) 「なんて」は主に「引用」で用いられている。
- 2) 「なんか」は文中に新たに挿入される用法が大部分を占めている。
- 3) 格助詞・「ハ」からの置き換えは両形式ともにある。

以下、それぞれ還元可能表現別に用例を見ていく。

4.2.1 助詞還元可能表現

それぞれの内訳は以下のとおりである。

表3 助詞還元表現の内訳

還元可能 表現	格助詞					係助詞	合計
	ガ	ヲ	ニ	デ	ノ	ハ	
「なんて」	6	1	4	0	0	2	13
「なんか」	6	4	2	2	1	9	24

以下、用法別に用例を挙げ、併せて互換の可否についても記す。用法は益岡・田窪（1992）による。各用例の文末（ ）内の数字は『女性のことば・職場編』のレコード番号である。

4.2.1.1 ガ還元型（「なんて」6例／「なんか」6例）

①「動きや状態の主体を表す用法」

「なんて」（4例）

（3）は「アメリカ人」が「フレンチトーストを食べる」である。

（1）途中の駅、行ってもさ、乗ってくる人なんて、いやしないの。（4984）

（2）仙台ツアーなんてあるんですか（10298）

（3）###アメリカ人なんてさあ、朝からさあ↑、それこそバターたっぷり
りのフレンチトースト↑（11322）

で、昼にピザだ、ハンバーガーだ、ジュースだ、ポテトだって食べてえ。

（11323, 11322 と同一話者）

「なんか」（6例）

（4）あと、だからディズニーランドのあーいうディズニーの売ってるお店もあるしー、食べるころなんかほんといっぱいあるしー。（444）

（5）[名字]さんなんか、こないだ署名に犬の名前書いてたから。（5460）

②「状態の対象を表す用法」

「なんて」（2例）

（6）は「JCB（カード）」が「使える」という状態の対象、（7）は「いやだ」という感情の対象が「めがねくん」である。

（6）JCBなんて使えるの↑（10054）

（7）めがねくんなんて、##だからいや。（7120）

4.2.1.2 ヲ還元型（「なんて」1例／「なんか」4例）

①「動作や感情を向ける対象を表す用法」

「なんて」（1例）

（8）で、結局さー、（中略）なんかハワイらしいものなんて探そうと思ってもさー、なかなかなくてさー。（453）

「なんか」（4例）

（9）だめですよ、風邪なんかひいちゃ。（9269）

（10）結構おじいさんとかもこーんなパフェなんか食べてますよねー（10746）

（11）前はなんかあの一、現金なんか引出す機械、ああいうの台数が少なかったんだけど、（後略）（11407）

4.2.1.3 ニ還元型（「なんて」4例／「なんか」2例）

①「人やものの存在場所を表す用法」

「なんて」（2例）

（13）は「ハワイらしいもの」の存在しない場所を「なんて」で示している。

（12）福岡のセンターなんてまあ女性が多いけどー、（後略）（10375）

（13）で、結局さー、なんかハワイなんてー、なんかハワイらしいものなんて探そうと思ってもさー、なかなかなくてさー。（453）

「なんか」（1例）

これは「私の好みの範疇に[名字]係長が入っている」という意味である。係長の存在が私の中にあるということで、この用法になるだろう。

（14）あたしなんか、[名字]係長、はいってるよ。（7886）

②「移動の着点を表す用法」

「なんて」（1例）

（15）特急だから指定席、とったけど、指定席なんて誰も乗ってこないんだよ。（4989）

③「事態の時を表す用法」

「なんて」（1例）

「朝の1時間に会話がな」と、会話が行われる時を表している。

（16）でも朝の1時間なんてなにもみんな会話ないですよ。（933）

④「所有者を表す用法」

「なんか」(1例)

海外旅行の経験を問われた文に対する答えで、「あたしに海外旅行の経験がぜんぜんない」となり、「経験」を持たない人物が「あたし」である。

(17) あたしなんか、ぜんぜん、なんか、ないです。(972)

4.2.1.4 デ還元型(「なんて」0例/「なんか」2例)

①「範囲を表す用法」

「なんか」(2例)

それぞれ「アメリカでどうか、JCB が使えるか」「カードの中で JCB はぜんぜん使えない」である。(19) は省略が多く文にするのが困難だがここに分類する。

(18) A : アメリカなんかどうなの↑ (10053)

B : J C Bなんて使えるの↑ (10054)

(19) A : カードなんか、J C Bぜんぜん。(10055)

B : だめだよねー。(10056)

(中略)

A : やっぱビザ、マスターってゆう。(10060)

4.2.1.5 ノ還元型(「なんて」0例/「なんか」1例)

①「後続名詞を限定修飾する用法」

「なんか」(1例)

(20) は、就職の面接にきた人物について「その女性にうちの仕事の形態がちょうどいい」となる。

(20) やっぱり30代とか、(中略)フリーとかでやってた人とかって、大企業に入って、ってゆう気持ちにはなんないんだろねー、きっとねー。(8546)

##、そうかもしれない###。(8547)

だから形はちょうどいいんじゃない、うちなんか。(8548, 8546 と同一話者)

4.2.1.6 ハ還元型(「なんて」2例/「なんか」9例)

①「はが構文」

「なんて」(1例)

ハワイのコンドミニアムが話題で、いいコンドミニアムの例として「テニスコートがあるところ」を挙げている。これは「はが構文」の「辞書は新しいのがい

い」型の1つと言えるだろう（野田 1996:54-63）。元の文は「(コンドミニアムの中に) テニスコートがあるいいところがある」で、「いいところ」が主題となって前に移動し「いいところはテニスコートがあるところがある」となったと考えられる。

(21) いいところなんて、テニスコートとかあるとことかあんでしょ↑ (645)

②形容詞述語文

「なんて」(1例)

Aの「途中まで(見てた)」を受けてBが「途中まで」は「だめだ」と言っている。

(22) A : きのうねー、勝ったよ、ワールドカップの予選。(7990)

知ってた↑ (7991)

B : 見てた↑ (7992)

A : 途中まで。(7993)

B : だめだよ、途中までなんて。(7994)

③名詞述語文

「なんか」(9例)

(24) は「ぼくはこれから仕事だ」という意味である。

(23) ぼくなんかこれからだもんね。(4951)

(24) で、あとさー、うちの姉なんか38なんですけどー。(8454)

(25) 婦系図(おんなけいず) なんかどっちかちゅうと、もう、アップのほうですよー。(9037)

4.2.1.7 「なんて」「なんか」の互換性

ほとんど全て互換可能であったが、次の例は「なんか」を「なんて」に置き換えると不自然になる。

(11) 前はなんかあの一、現金なんか引出す機械、ああいうの台数が少なかったんだけど、(後略) (11407)

(11') ?? 前はなんてあの一、現金なんて引出す機械、ああいうの台数が少なかったんだけど、

これは「なんか」が連体修飾節中にあるからで、「なんて」に置き換えると提題性が強いために節の中に収まりきらず、その外までかかってしまい不自然な文になると考えられる。(22)も「なんて」を「なんか」に換えると多少不自然に

感じられるが、この原因についての考察は次回とする。

- (22) A : 途中まで。(7993)
 B : だめだよ、途中までなんて。(7994)
 (22') ? B : だめだよ、途中までなんか。

4.2.2 引用「ト」類還元型

これは、更に次の6つに分けられる。

- ①ト+引用動詞型 ③ト+いう+名詞類型 ⑤トハ型
 ②ト+動作動詞型 ④トイウ+名詞類型 ⑥O型(ト付加型)

①は「言う」「思う」等の引用動詞を伴い、引用部でその発言・思考内容を表すもの、②は動作を表す動詞を伴って「同一場面共存の関係」⁵⁾を表すものである。③④は引用部と後ろの名詞類(形式名詞を含む)をつなぐ役割を担うものだが、③では「ト」のみに置き換えられ、後ろに「いう」が付くことで名詞類につながり、④では「トイウ」に置き換わり名詞類につながる。⑤は藤田(2000:459-484)のいう「～「トハ」構文」に相当し、「ト」と「ハ」が「分割不能のまとまり」として働いており、以下にそれに対する「評価づけ」がくるものである。⑥は本来引用の形式が必要ないところに「なんて」が付加されているものである。個々の用例出現数は以下のようなになる。

表4 引用「ト」類還元可能表現

還元可能表現	ト				トイウ ④	トハ ⑤	合計
	①	②	③	⑥			
「なんて」	36				8	3	47
	13	1	5	17			
「なんか」	4				0	0	4
	4	0	0	0			

4.2.2.1 ①ト+引用動詞型(「なんて」13例/「なんか」4例)

「なんて」(13例)

(29)は引用動詞が省略されており、(30)は「なんて言っていた」が縮まって「なんてた」となっている。

- (26) あれもぜひ行こうと思って、友達にあれは見ようねなんていっててね、
ついに見ないうちに終わっちゃった。(4805)
- (27) ねえ、先生が年だなんておっしゃったらねー。(4865)
- (28) ええ、改めてうちは狭いんだあなんて思いましたよ。(10601)
- (29) この前の韓国も、[名字]さんけっこう、電話ではね、楽しそうに、元気
そうにやってたけれど、出張報告みたら、そうだったんだーなんて。(6475)
- (30) なんか、お金たまんないから、どうしよう、なんてたけどねー。(7988)

(31) は具体的な「言う」という意味を失って「といたら」と複合辞化し、「連想をひき出すキーワードをもち出す」(藤田 2000:416) 働きをしている。
(32) は動作動詞を伴っているが「書く」内容が引用部にあるのでここに含められる。

- (31) で、たまに男の人でねえ、甘いものを食べる人なんていったら、えー、
男のくせにとかいう感じで。(10768)
- (32) [名字]さんなんか、こないだ署名に犬の名前書いてたから。(5460)
<笑いながら> [名字]しんのすけなんて。(5461, 5460 と同一話者)
「なんか」(3例)

「なんか」には「述語の言い切りの形に付いて前の文全体を受ける用法」はない(山田 1995:343) ため本来現れないはずだが、次の4例が現れた。

- (33) うーん、いくつだったっけ↑ってゆって、またっ、<笑いながら>なんか
かいながらねー、やってたんですよ。(8451)
- (34) (35) じゃ、つくってあげようか↑、あたしが、なんかいったらさ、あ、
ほんとに↑、<笑いながら>なんかいっちゃって。<笑い・複> (8940)
- (36) どうでもいいよ、<笑いながら>なんかいっちゃって。(8947)

これは「かなんか」の最初の「か」が脱落したものだろうか⁶⁾。同一場面で短時間に現れ、うち(33)(34)(35)は同一話者によるので、個人的な影響や音声面の影響も考えられる。更に用例を収集して検討する必要があるだろう。

4.2.2.2 ②ト+動作動詞型(「なんて」1例)

「はい、はい」と言う行為と「引き受ける」行為が同時に同場面で行われていることを表している。

(37) でっ、<笑い>なんか、わたしもいい加減ですから、はい、はいなんてね、引受ちゃって、(後略) (1592)

4.2.2.3 ③ト+いう+名詞類型(「なんて」5例)

文を受けるものと名詞を受けるものがあり、受ける側は形式名詞が多く4例であった。(40)は他者のあいづちを挟んで「～なんていう勢い」となっている。

(38) でも、会社から、家にかかってくるなんてゆうのはやだ(後略) (6359)

(39) まあここに、あの養成講座支援キャンペーンなんてゆうふうにタイトルつけたんですけれども。(10256)

(40) A:もう、まさに今もう一、やってるさいちゆうで人が足んなーい、みたいな(うーん 他者(女)) 勢いでさー、話されてさー (8598)

でー、ゆくゆくは講師を一、どんどん増やして一なんてさあ。(8599)

B:うん。(8600)

A:ゆうねえ、勢いで、入ってみたら、えっ<笑い>、みたいなね。

(8601)

4.2.2.4 ④トイウ+名詞類型(「なんて」8例)

③同様、文と名詞を受けるものがあつた。(44)のようにそれまでの発話を指示語を挟んで二段階で受けるような形になっているものも、名詞類にかかっているとみてここに入れる。

(41) 人さみしいなんて言葉あつたっけ。(160)

(42) レモンティーなんてものはちょっとお目にかかったことが。(10839)

(43) あのー、まあ、なん日か、あの、して、だいじょうぶですよなんてことになって。(3991)

(44) 今までの蓄えもあるからいいわけですよ、お金なくたって。(9466)

なんて、そんなことはないか。<笑い> (9467, 9466 と同一話者)

4.2.2.5 ⑤トハ型(「なんて」3例)

(45)は演じている俳優と役柄のイメージが合わないことについて所感を述べ、(46)は相手の発言を受けてある人物が「そんな「早く切り上げよう」なんてこの前のときとずいぶん違う」と思った、となる。これらは「なんて」を除くと文が成り立たないという点で、2文にまたがる(47)と異なるが、前文を受けて

「評価づけ」をしている点で同様である。

- (45) 真田じゃさあ、絶対、課内で浮いて一匹狼になってるなんて信じらないじゃない。(118)
- (46) この前のときとずいぶん違うなー、とか思ってんじゃない。(7938)
そん、そんな早く切り上げようなんて。(7939, 7938 と同一話者)
- (47) ##でいいか聞いてみて、よければここでやっちゃいますか↑ (3379)
そうですね。(3380)
- なあんて、こわいかな。(3381, 3379 と同一話者)

4.2.2.6 ⑥O型 (ト付加型) (「なんて」17例)

「ト」類還元型中最も多かった。「なんて」の付加により、更に後ろに引用動詞が省略されているように感じられる。(51) (52) のように少し間を置いて付加している例もある。

- (48) いや、いくつでも一、なんて。(7679)
- (49) 誰かに聞く、なんて。〈笑い〉(8011)
- (50) 勝手にやってくれ一なんて。(9621)
- (51) 親戚の人は、###書いちゃってもまずいんじゃないの〈笑い〉(5439)
〈笑いながら〉なんて一。(5440, 5439 と同一話者)
- (52) それは、わたしに一ください。(9310)
〈笑いながら〉なーんて、また。(9311, 9310 と同一話者)

①の動詞省略の場合とこの⑥との違いは、その引用部の発話・思考と進行中の発話との間の時間差や話者の別の有無による。①は引用部と進行中の発話にそれらのずれがあるのに対し⑥にはそれがない。発話しながらそれを引用の形に変えているのである。この「なんて」は文の成立と無関係で、話者が何らかの効果を狙って引用の形態にしたと考えられ、「擬似引用」と言えるだろう。

4.2.2.7 「なんて」「なんか」の互換性

今回「なんか」の「引用」の例が現れたが、その使用自体が用法の1つとできるかまだ不明なため、ここでは従来どおり「なんか」に「引用」の機能がないため「なんて」を「なんか」に置き換えることはできない、としておく。

4.2.3 新規挿入型

次の4つに大別できる。格助詞「ニ」を伴わない時を表す名詞に後接するもの、名詞－助詞間や副詞－動詞間、動詞の語幹＋タリ－補助動詞間に割って入るものである。時を表す名詞に後接する場合を除き、いずれも前後の要素のつながりが強い部分に挿入されている。

表5 「なんか」の新規挿入箇所

挿入箇所(一)	時名－	名－助	副－動	動列－動	合計
「なんて」	1	0	0	0	1
「なんか」	2	26	1	2	31

4.2.3.1 時を表す名詞後接型（「なんて」1例／「なんか」2例）

「なんて」（1例）

(53) 昔なんてだって三段組とかあった。(3194)

「なんか」（2例）

(54) あんときなんかー、ケ、ケーキパニックじゃないけど、なんかそんな感じだったよね。(6216)

(55) うーん、この前なんかねー、1週間ぐらいでー、ロンドン、ニューヨーク行ったってゆうやつ、いたんだけどさー。(10114)

4.2.3.2 名詞－助詞間挿入型（「なんか」26例）

表6 「なんか」に後接する助詞の内訳

	格助詞				係助詞		終助詞	合計
	ガ	ニ	デ	ノ	ハ	モ	ネ	
Nなんか+								
用例数	4	4	2	1	3	11	1	26

4.2.3.2.1 名詞－格助詞間挿入型（「なんか」11例）

(56) (前略) 表情なんかが、全部すっぽりはいるわけ、横ながだと、ね、(後略) (2426)

(57) みんな、やっぱりアパートなんかに住んでますからねえ (後略) (10662)

(58) いや、だけど、立ち読みで読んだのがけっこうあるよ。(3230)
あの、単行本なんかで。(3231, 3230 と同一話者)

(59) 日本の喫茶店なんかの、典型的###。(10825)

4.2.3.2.2 名詞－係助詞間挿入型（「なんか」14例）

(60) で、あの一、タイトルまわりなんかは、けっこうデザイナーのほうでうっていただいて、こんなふうにな。（837）

(61) だからあの一、も、できあがってるものなんかは、もう、先に、もう、つくっちゃっとく、どんだん。（9063）

(62) でも、あったかいとこだから、たとえば光熱費なんかもそんなかかんないだろうしね。（10344）

(63) ういろう売りなんかも印刷しちゃって。（9064）

4.2.3.2.3 名詞－終助詞間挿入型（「なんか」1例）

(64) 第3部ってゆうのがこうゆう普通の一、ちっちゃいやつなんかね。（7505）

4.2.3.3 副詞－動詞間挿入型（「なんか」1例）

(65) すべ、すべてをいっしょになんかやろうとするから一。（2102）

4.2.3.4 動詞連用形＋タリ－補助動詞間挿入型（「なんか」2例）

(66) でも間違えて机をさげちゃったりなんかすると大変ですよ。（4399）

(67) カレンダーにはね、こう印つけたりなんかするけど、ごっちゃごちゃになっちゃうからね、（後略）（4862）

4.2.3.5 「なんて」「なんか」の互換性

「名詞－助詞間挿入型」は「なんて」に置き換えられない。これは「なんて」が格助詞や係助詞を後接させる性質を持っていない（寺村 1991:18）（山田 1995:342）ためである。それ以外はいずれも置き換え可能であった。

5. まとめ

以上、自然談話資料に現れた「なんて」と「なんか」の用例を分類し、その互換性を見た結果、同じく「など」の口語的な形とされる両形式に、使用され方の違いがあることがわかった。以下、簡単に整理し、先行研究の記述とも照らし合わせる。

5.1 「なんて」「なんか」の用法と互換の可否

◎は用例が多く特徴的と考えられるもので、両形式が○の場合、互換可能である。他方が使用できない機能のものが、それぞれの特徴的な用法であることが分かる。

表7 「なんて」「なんか」の用法と互換の可否

	「なんて」	「なんか」
1) 助詞還元型	○ ^(※1)	○
2) 引用「ト」類還元型	◎	?? ^(※2)
3) 新規挿入型①時名詞－	○	○
②名詞－助詞	×	◎
③副詞－動詞	○	○
④動詞列－動詞	○	○

※1 連体修飾節中の格関係を示す部分で「なんか」が用いられている場合、「なんて」に置き換えられないことがある。

※2 本来その機能を持たないはずだが、今回用例が現れたため、現時点では判断できない。

5.2 「など」との関係

3種の型のうち1)と3)は「など」、2)は「などと」「などという」の形で、構文論的には「など」も使用可能であるにもかかわらず、用例は見られなかった。よって、話し言葉では「など」は用いられないと言えそうである。ただし、これについては更に場面や会話相手等社会的要因の分析が必要である。

5.3 否定との共起

先行研究では否定の形や語と共起するケースが多いとされているが、今回の資料では多くは見られず、「なんて」は全61例中9例、「なんか」は全59例中2例であった。

6. 今後の課題

本調査結果の詳細な分析を行い、各機能や互換の可否の原因の考察、「って」等同様の機能を持つ他形式との比較を行うと共に、個人差や年齢、場面等社会的要因の影響についても考察を進める。併せて、他資料との比較も行うことを課題とする。

謝辞

本稿をまとめるにあたりご指導くださいました日本女子大学の石田敏子先生、清水康行先生をはじめ、助言をくださった方々に心より感謝いたします。

注

- 1) 国研(1951)、寺村(1981, 1991)、仁田(1982)、沼田(1986, 2000)、山田(1995)他。
- 2) 修士論文で考察済み。
- 3) 11102レコードの内訳は朝 3872(35%)、会議 2613(24%)、休憩 4617(42%)、時間は朝 40%、会議 25%、休憩 35%。ここでの「談話」とは「音声言語による、意味のまとまりのある意思伝達行動のこと」(p. 10)。
- 4) 渡辺(1997)では「なんか」を「連語として」「助詞として」「談話レベルで(フィラー)」に大別しているが、このうち「助詞として」のみ今回対象とした。
- 5) 「ト」で示される発話・思考と述語で表される行為とが同一場面に共存しているもの(藤田 2000:74)。
- 6) 「かなんか」の「なんか」は「疑問詞・代名詞」で「はっきりしていないものを「確実ではないけれど…のようなもの」として指示」(鈴木 2000:67)。

参考文献

- 奥津敬一郎(1971)『生成日本文法論』大修館書店
- 現代日本語研究会(1999)『女性のことば・職場編』ひつじ書房
- 国立国語研究所(1951)『現代語の助詞・助動詞一用法と実例一』秀英出版
- 鈴木佳奈(2000)「会話における「なんか」の機能に関する一考察」大阪大学言語文化学会『大阪大学言語文化学 Vol. 9』 pp. 63-78
- 鈴木理子(2000)『「なんて」の用法分類及び日本語学習者への提示方法試案』(拓殖大学大学院修士論文)
- 寺村秀夫(1981)「ムードの形式と意味(3)」筑波大学文芸・言語学系『文藝言語研究・言語篇 6』 pp. 53-67
- _____ (1991)『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版
- 仁田義雄(1982)「助詞類各説」『日本語教育事典』大修館書店
- 沼田善子(1986)「第2章 とりたて詞」奥津敬一郎他『いわゆる日本語助詞の研究』凡人社 pp. 105-225
- _____ (2000)「3 とりたて」金水敏他『時・否定と取り立て』岩波書店 pp. 153-216
- 野田尚史(1996)『はとが』くろしお出版
- 藤田保幸(2000)『国語引用構文の研究』和泉書院
- 益岡隆志・田窪行則(1992)『基礎日本語文法一改訂版一』くろしお出版
- 山田敏弘(1995)「ナドとナンカとナンテー話し手の評価を表すとりたて助詞一」宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法(上)』くろしお出版 pp. 328-344

渡邊久美（1997）「「なんか」の意味と用法」『広島大学留学生センター紀要7』
pp. 49-63

（日本女子大学大学院文学研究科日本文学専攻博士課程後期）